

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 渡辺雅彦 東海大学医学部外科学系整形外科学 教授

研究要旨 脊椎のびまん性特発性骨増殖症 (DISH) に関しては、転倒など軽微な外傷による骨折や、見逃しによる麻痺の悪化について報告してきた。今回は、DISH を伴う脊椎後弯を有する患者で、心臓血管外科における長時間の仰臥位手術によって DISH 強直脊椎における骨折が発生し、緊急で手術を行ったが死亡した症例を経験したので報告する。

A. 研究目的

びまん性特発性骨増殖症 (DISH) を有する症例が軽微な外傷で強直脊椎を骨折し、麻痺が起こることを報告してきた。今回は長時間に及ぶ仰臥位での手術により強直脊椎が骨折し、死亡する症例を経験したため、今後の予防策を検討する目的で報告する。

B. 研究方法

該当症例の診療録、画像を通じて、契機となった心臓血管外科の手術までの経過と、受傷後の治療経過を調査した。

C. 研究結果

【症例】腰椎圧迫骨折で2年前に整形外科受診歴のある77歳の女性が胸部大動脈瘤に対し、仰臥位で開胸手術を受けた(手術時間:約7時間)。手術数時間後からドレーン出血量が急増し、再度開胸手術を施行したが出血源は同定できなかった。緊急で造影CTが施行され、DISHを伴う強直脊椎の第9胸椎高位の骨折と、第9肋間動脈の出血が同定され、緊急でカテーテル動脈塞栓術が施行された。翌日、整形外科でT6-12後方固定術を施行した。その後は集中治療室で全身管理が行われたが容態は悪化の経過を

たどった。術後3週に第3腰椎の骨折も発生し、腰動脈・腸腰動脈の塞栓術を施行されたが、再度全身麻酔下の手術は困難と判断され、術後4週で死亡した。

D. 考察

本症例は脊椎の圧迫骨折の既往もあり、比較的高度な胸腰椎後弯を伴う DISH 強直脊椎であった。脊椎外科以外の分野において、後弯の DISH 脊椎症例の仰臥位リスクは認識されておらず、整形外科での受診歴があったにも関わらず、当院の心臓血管外科での手術における骨折が予防できなかった点が悔やまれる。

E. 結論

DISH後弯症例における長時間仰臥位のリスクを周知する手段の構築が望まれる。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表: なし
2. 学会発表: なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし